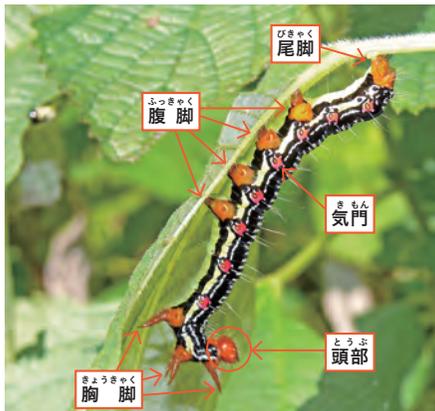




み た む ら と し ま さ
三田村敏正

コクーンワールド福島
副会長、日本蛾類学
会、日本野蚕学会

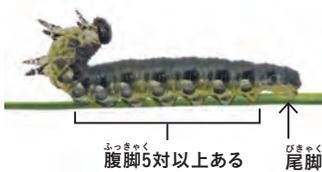
つるつるの芋虫、毛やトゲのある毛虫は、チョウやガなどの幼虫です。ちょっと苦手……という方もいるかもしれませんが、苦手意識を手放して観察してみませんか？ 観察するには、あらかじめ毒のある毛虫を把握しておきましょう。



フクラスズメの体の作り



ヒロオビトンボエダシャクの体の作り



マツノキハバチの体の作り

体の作りを見てみよう

芋虫、毛虫はどんな体の作りをしているのでしょうか？ まず注目して欲しいのは足です。フクラスズメの写真をみると、胸脚が3対(6本)、腹脚が4対(8本)、尾脚が1対(2本)あります。チョウやガの足の数は、これが基本形ですが、ヒロオビトンボエダシャクのように腹脚が1対しかないもののほか、2対、3対の種もあります。また、腹脚が5対以上あるなら、それはハバチというハチの幼虫です。



毛虫との触れ合い

リンゴドクガは美しいレモンイエローの毛虫で、淡いクリーム色の個体もあります。ドクガという名前でも毒はないので触ることができます。毛はやわらかいので、さわわたした感触です。背中に盛り上がった毛の束があり、つつくと背を曲げ、毛の束の間にある黒い横線を見せます。観察会では、手に乗せて楽しむ子どももいます。

注意：毒がないとされている毛虫でも、痒みや炎症を起こす例が報告されています。肌が敏感な方、アレルギー体質の方はお気を付けください。

芋虫、毛虫をじっくり見たこと
がありますか？ 野外で見かけても
近付いてじっくり見たことがある
人は少ないかもしれませんね。こ
の機会にぜひ、芋虫、毛虫を観察
してみてください。まず、注目し
てほしいのは、足の数です。次に
気門を探してみましょう。幼虫の
体の横に縦長の丸い紋が付いてい
ます。昆虫はこの気門で呼吸をし
ているのです。いくつ気門がある
のかも調べてみましょう。

毒のある毛虫はごくわずか

それでは、野外で探してみましょ
う。木の葉や草に虫が食べた跡が
あるかどうか、木の下に糞が落ち
ているかどうかを見つけるポイン
トです。

注意してほしいのは毒を持つ種
類がいることです。毛虫には毒が
あるというイメージがありますが、
実は日本に6000種以上もいる
ガの仲間の中で、幼虫に毒がある
種類はごくわずかです。しかし、
そのわずかな種類のせいでひどい
目に遭う人がいるのです。ですか
ら、毛虫を見つけて毒があるのか



ヒトリガ(ヒトリガ科)

背中に黒く長い毛、足元に褐色の毛を持つ。幼虫で越冬し、5月から初夏に道路を横断しているのをよく見かける。触ると丸くなる。



モンクロシャチホコ(シャチホコガ科)

サクラやウメなど主にバラ科の葉を食べる。夏から秋に幼虫を見ることができ、若齢幼虫は集団になる習性がある。



アゲハモドキ(アゲハモドキガ科)

ミズキの葉を食べる。体の表面から分泌された白い物質でおおわれ、ふわふわした毛のような状態になっている。



ツマグロヒョウモン(タテハチョウ科)

スマレの仲間の葉を食べる。背中に赤い線があり体にはたくさん突起がある。最近、増えているチョウ。

覚えておきたい

あぶない毛虫



イラガ(イラガ科)

カキ、サクラなどの葉を食べる。トゲに触ると、毒液が注入されピリッと痛むため電気虫とも呼ばれている。



ヒロヘリアオイラガ(イラガ科)

トウカエデなどの街路樹に多く、若齢幼虫は群れる。体に多数の突起があり、触れるとトゲが刺さる。繭にも毒のトゲがある。



ドクガ(ドクガ科)

サクラやコナラなど多くの植物の葉を食べる。多数の目に見えない毒針毛を持つ。卵、繭、成虫にも毒針毛がある。



チャドクガ(ドクガ科)

チャノキ、ツバキ、サザンカの葉を食べる。若齢幼虫は集団になる。極めて多数の毒針毛を持つ。卵、繭、成虫にも毒針毛がある。



若齢幼虫の集団



マツカレハ(カレハガ科)

マツの葉を食べる。胸部の背に毒針毛があり、これが皮膚にささると炎症を起こす。繭にもこの毛がある。



タケカレハ(カレハガ科)

ササ類、タケ類などの葉を食べる。背中に黒い毒針毛を持ち、この毒針毛は繭にも毛の束として残される。



ホタルガ(マダラガ科)

サカキ、ヒサカキの葉を食べ、一見、芋虫のように見えるが、毛は生えている。毛には毒はないが体から毒液を分泌する。

ここに紹介した以外にも毒のあるケムシは、モンシロドクガ、タケノホソクロバ、ヨツボシホソバなどまだまだいます。刺されてしまった時は、応急処置としてセロテープやガムテープで毒針毛を取るか洗剤で洗い流します。ただ、気が付かないうちに触れていて家に帰ってから炎症を起こすこともあります。観察時は服装には気を付けましょう。

EPSON
EXCEED YOUR VISION

本コーナーは、エプソン純正カートリッジ引取回収サービスを利用されたお客様へのポイント寄付によるご支援をいただいております。

どうか分からないときは触らないようにしましょう。また、毒がなくとも毛の刺激で、人によっては痒みが出る場合もあります。毒がないと分かった時はそっと触ってみます。その時、芋虫や毛虫の反応も感じてください。フラスズメのように体を大きく震わせ威嚇するのもしあれば、丸まって落ちてしまうのもしあります。ただし、触られることは虫にとってはストレスになりますので少しだけにしてしましましょう。枝に止まっている幼虫は足の力が強いので、無理やり引張ると足が切れてしまうことがあります。また、強くつかむとつぶれてしまいます。可能であれば、足を優しくすくうようにして手のひらにのせてみましょう。手のひらで幼虫が歩いている時の足の感触を感じてみます。そうすればきっと、愛着が湧くことでしょう。